

公益社団法人日本コンクリート工学会
コンクリート工学論文集原稿執筆要領

1. 原稿の執筆にあたっては、「投稿要領」の1, 4, 6, の各項目に注目してください。
2. 論文は10ページ以内とし、さらに4ページまでの超過が認められます。
3. 原稿は、A4サイズの白い用紙に、必ずパソコンの文書作成ソフトで作成してください。
4. テンプレートを参考に、(1)題目・著者名、(2)概要(和文、300字程度)及びキーワード(和文、4～7語程度)、(3)序論、(4)本論、(5)結論、(6)参考文献、(7)英文題目、(8)ローマ字綴り著者名、(9)Synopsis(100Words程度)及びKeywordsの順で原稿用紙に記入してください。
5. 1ページの行数は25字×49行×2段組に設定し、余白は上22mm、下22mm、左22mm、右22mmに指定して作成してください。本文の級数は9ポイントで、フォントはMS明朝体(またはこれに類似したもの)を用いてください。使用する句読点は「, 」と「。」とし、いずれも全角を使用してください。
6. 本文、図・表・写真とも原稿用紙の枠内に必ず収めてください。
7. 題目
 - (1) 題目は級数を20ポイントとし、上枠から3行空け、左右中央に位置するように配置してください。
 - (2) 明瞭・簡潔で内容を的確に表すものとしてください。
 - (3) 一連の研究であることを示す(その1)、(その2)などは認められません。連続して数編投稿する予定でも、各編がそれぞれ完結したものとしてください。
8. 著者名
 - (1) 著者は、原則として4名以内としてください。
 - (2) 著者名は、題目から行間が2行空きとなるようにして、左右中央に配置し、著者名の右肩に*印(脚注を示す、著者が複数の場合は*と番号を数字で示す)を付けてください。なお、著者名は、人数により以下のとおりに記してください。
 - 1) 一人の場合: ○ ○ ○ ○*¹
 - 2) 二人の場合: ○○ ○○*¹・○○ ○*²
 - 3) 三人の場合: ○○ ○○*¹・○○ ○*²・○○○○○*³
 - 4) 四人の場合: ○○○○*¹・○○ ○*²・○○○○○*³・○○○○○*⁴
 - (3) 脚注に示す著者の所属は、級数を7ポイントとし、第1ページ目の左段下に本文から1行空けてラインを引き、その下に以下のように*1などの識別番号と共に、勤務先、役職名、学部学科名(部課名)、学位、会員種別(非会員は記載なし)、住所を、職種に応じた以下の記載例の順序で記してください。その際、枠からはみ出さないよう注意してください。

[例] *1 ○○大学教授 ○○部○○学科 工博(正会員)〒102-0083 東京都千代田区麴町1-7

*2 ○○○大学大学院院生 工学研究科○○工学専攻(学生会員)〒102-0083 東京都千代田区麴町1-7

*3 ○○○(株)技術研究所主任研究員 修(工)(正会員)〒102-0083 東京都千代田区麴町1-7

9. 概要・キーワード

著者名の次に 300 字程度の概要と 4～7 語程度のキーワードを必ずつけてください。なお、概要、キーワードは級数を 8 ポイント、フォントは MS 明朝体とし、左右の枠線から 3 字空けた 1 段組とし、左右中央に配置してください。

- 1) 著者名と概要との間には空白行を 1 行設けてください。
- 2) キーワードは概要の下に続けて記してください。キーワードの下は空白行を 2 行設けてください。

10. 本文

(1) 章の見出しは級数を 10 ポイントとし、キーワードの下に空白行を 2 行設けた上で、左端から 1 字空きで始めてください。字体はゴシック体を使用してください。

(2) 節の小見出しの級数は本文と同じく 9 ポイントとし、左端から 1 字空きで、字体はゴシック体を使用してください。

(3) 項の見出しは左端から 1 字空きで、() は全角文字を使用してください。

(4) 箇条書き

1) 改行する場合は 1 字空きではじめ、

1)

2)

3) としてください。

2) 文中に組み込む場合は

....., (1)....., (2)....., (3)....., としてください。

(5) 数式

1) 極力簡単にまとめてください。

2) 式は 3 字空けてから書き出してください。

3) 式番号は(1), (2), (3)とし、式の最後に右寄せにして記してください。

4) 数式中の変数は斜体文字を用いてください。

5) 文中での呼称は式(1), 式(2), 式(3) としてください。

(6) 記号

1) できるだけ一般的なものを用い、最初に記した箇所でその定義を明らかにしてください。

2) 判読上まぎらわしいもの(大文字・小文字が同形のものや異字間で形が似通っているものなど)は、その区別を明瞭にしてください。特に、下付又は上付にすべきものは、はっきりと示してください。

(7) 単位

原則として SI 単位系に統一してください。ただし、引用文献等において、SI 単位を使用していない場合のみに限ります。

11. 図・表・写真

(1) いずれも単独で意味が十分通じるようにまとめ、それぞれできるかぎり簡潔なキャプション(説明文)を付し、和文か英文に統一してください。

(2) 図・表・写真の挿入は、最小限に留めてください。

- (3) 図・表は、本文の引用箇所に近い所に配置してください。ページ又は段の幅一杯に配置し、これらの左右に文章を記載しないでください。
また、図・表中の文字の級数は7ポイント以上を用いてください。
- (4) 図・表・写真は、本文から1行空けた後に印字又は貼付してください。図・写真の番号・タイトルは、図・写真(位置)の下に、表の番号・タイトルは上に記入し、級数は8ポイント、和文フォントはMSゴシック体、英文のフォントはArial(またはこれに類似したもの)を用いてください。
- (5) 呼称はそれぞれ以下のとおりとし、章ごとに番号を分けずに通し番号としてください。
和文の場合→ 図-1, 表-1, 写真-1
英文の場合→ Fig.1, Table 1, Photo 1
- (6) 著作権のある図・表・写真を借用する場合は、論文及び討議への転載と電子公開への再転載の許諾について、事前に原著者及び発行所の了解を投稿者の責任において得ておいてください。また、その出典を参考文献の記載方法に従い、明記してください。

12. 参考文献

- (1) 参考文献は級数を7ポイントとしてください。
- (2) 引用又は参考とした文献名は、使用順に番号を振り、結論のあとに参考文献としてまとめて掲げてください。なお、参考文献の末尾は、左右の段をできるだけ揃えるように配置してください。
- (3) 文献番号は、本文中又は引用した図・表・写真のキャプション(説明文)の最後に上付数字で1), 2), 3),のように明記してください。
- (4) 記載方法
 - 1) 論文等の場合
著者名(姓名): 題名, 誌名, Vol., No., 掲載ページ, 発行年月の順とします。
 - 2) 単行本の場合
著(編)者名(姓名): 書名, 発行所名, 掲載ページ, 発行年月の順とします。
- (5) 記載例

- [例] 1) Davis, J. M. : Simplified Diaphragm Analysis, J. of Structural Div., ASCE, Vol.103, pp.2093-2103, Nov., 1977
- 2) Shanley, F.R.: Basic Structures, John Wiley & Sons Inc., pp.291-304, 1947
- 3) 春野秋雄, 横田英治: 無塩化・無アルカリ型防凍結性混和剤による初期凍害の防止効果, コンクリート工学論文集, Vol.7, No.1, pp.113-122, 1996.1
- 著者名の表記については次のようにしてください(英文の場合)。
- 著者が1人の場合
Diamond, S. (姓が先でカンマの後に名前とする)
- 著者が2人の場合
Diamond, S. and Berney, R. S.
- 著者が3人の場合
Diamond, S., Berney, R. S. and Struble, L. J.
- 著者が4人以上の場合
Diamond, S. et al. (1人目だけ名をあげ, その他は et al.とする)

13. 英文概要

参考文献の1行下に0.5ポイントの罫線を引き、そこから1行空けて、題目・著者名・掲載巻号・英文概要・英文キーワードを記してください。なお、この部分は1段組で配置してください。フォントはTimes New Roman(またはこれに類似するもの)を使用してください。

- (1) 英文題目は、級数10ポイントで左右中央に配置してください。
- (2) 著者名は、級数9ポイントで斜体の文字で記し、左右中央に配置してください。
- (3) 掲載巻号は、級数8ポイントで左右中央に配置してください。なお、これは掲載号決定後、既ち印刷用原稿提出時に記入してください。
- (4) 英文概要本文は級数9ポイント、左右空きマスなしで記してください。
- (5) 英文キーワードは英文概要の次の行から級数9ポイント、左右空きマスなしで記してください。

14. その他

- (1) 原稿受付日は、原稿が公益社団法人日本コンクリート工学会に届いた日付とします。
- (2) 原稿提出後の修正及び採択後の校正段階での大幅な書き足し、書き改めは認められませんので、事前に十分推敲し、‘執筆要領’と‘投稿要領’の記載事項を再度確認のうえ提出してください。